

かわのひろば

不定期発行

編集・発行：おおきな樹 広報担当事務局
所在地：神奈川県伊勢原市伊勢原1-24-15
電話：0463-79-5355（代表）

令和4年度各事業についての報告

めだかくらぶ

事業所名の由来

川の中をすいすいと泳ぎ、友達と一緒にたくましく育てほしいという願いを込めました。



事業所番号 1454000140
事業種別 放課後等デイサービス
利用対象者
特別支援学校、支援学級に通学中の小学～高校生の児童、生徒

ある曜日では、利用者同士に仲間意識が芽生え、グループで行きたい場所を決めて話し合い、利用日でない土日に待ち合わせをして、保護者の協力を得ながら道灌まつりや海老名のらぼーとへのお出かけ、玉川で魚釣りをするなど、事業所が関わらない『遊び』が出来るようになりました。



こうした子どもたちの成長は、めだかくらぶが一貫して『主役は子ども』『子どもの遊び場』といった基本姿勢の中で、子どもたちが出来るだけ自由に、各々がのびのびと遊び、体験、活動し自信をつけ、また意思確認、様々な遊びの中から選択できるよう工夫し、探求心や創造力が養うよう支援してきた成果だと確信しています。これからも、潜在的な地力が発揮できるよう支援をしていきたいと思ひます。



外観



おおきな樹

事業所名の由来

すくすくと育ちおおきな樹となり、伊勢原市で地域に根差しみんなが頼れる拠点となるべく願いを込めました。



事業所番号 1454000264
事業種別 児童発達支援センター
利用対象者
発達に心配のある未就学児

クラス内で1日のリーダーや個別把握児童を決め、プログラムや児童の状態像の共通理解を図り、一貫した療育支援を目指しました。

年間を通して様々な経験ができるように日々の課題表を毎月作成し、年齢や発達に応じた工夫を凝らしたプログラムを提供し、楽しい園生活となることを目指しました。基本的な支援の柱としては、『身辺自立』『認知理解を深める』『ことばの表出』『柔軟な対人関係の構築』などを目指し、見通しが持てるような視覚的



支援の工夫や対人技術の向上のために大人との信頼関係を深める支援を行いました。

日々、園生活での経験を積み重ねることで個別支援から集団活動に参加できるようになった児童も見られ、年長、年中児クラスは友達関係も広がる様子がみられました。



外観



大型遊具

くるみ

事業所名の由来

それぞれにくるまれている殻を大事に大切に育てながら取り除き、地面（社会）に根付き大きく成長してほしいと願いを込めました。



事業所番号 1454000330
事業種別 児童発達支援
利用対象者
発達に心配のある未就学児

一人ひとりの発達に応じた療育を行うため、児童発達管理責任者及び担当職員を中心に個別支援計画の検討・作成を行い、本人や保護者の希望に沿った支援を行いました。朝の打ち合わせ時には、プログラム内容や個別把握児童の確認し、共通理解を図り、一貫した療育支援が出来ることを目指しました。支援終了後に、振り返りを行いプログラム内容、利用者への関わり方、次回に向けての検討を行いました。個別療育の支援内容は、小集団のプログラムを基に、認知・社会性を中心にプログラムを実施しました。保護者面談にて、年中、年少児の保護者からの要望もあり、小集団療育を行った中で個別の対応が有効と思われる利用者に案内を行いました。



家庭、幼稚園、保育園との連携を図るため、園の訪問、くるみへ見学、定期的な情報交換を行いました。



外観



室内



おおきな樹
代田主任

・どのような支援プログラムを行っていますか。

個別に支援目標を立てていることに加え、今年度から各クラスごとに年間のプログラムを作成し、それに準じて月の課題を作成しています。保護者の希望もお聞きして支援しています。

・どのような研修を行っていますか。

虐待防止に関する研修や防災・防犯に関する研修、個々の支援に関する研修など様々な研修を行っています。研修を通し、職員で共通意識を持つて支援に臨むことにつながっていると考えています。他人の意見に耳を傾けたり、自分や現状を客観的に見る機会になっていると考えています。

・事業所を一言で表すなら。

「やさしいゆりかご」♪

子どもにとっても保護者にとっても安心して身をゆだねることができる場になれたらと思っています。



おおきな樹

官脇主任

・支援プログラムを行う上で、どのような点を工夫していますか。

製作をする時などは、見本を作って視覚でもわかるようにしたり、活動の切り替え時には、全体指示だけでなく個別の声掛けをするようにしています。

・職員の良いところはなんですか。

主婦や子育て経験者が多いので、利用している子どもたちについても、私的なことについても共感性が高く、共有しやすい点です。

・事業所を一言で表すなら。

子どもも大人も笑顔がいっぱい♪



めだかくらぶ

木村主任

・特に力を入れている支援プログラムは何がありますか。

自由遊びの中で友だちの意見を聞き、折り合いをつけて仲良く遊べるか。支援学校のお子さんは、就労に向けての作業課題を取り入れています。

・支援プログラムの中で、どのような点を工夫していますか。

か。

友だちとの関わりの中で、自分の気持ちの切り替え方や状況を把握して説明ができるかを大人が見守りつつお子さんと一緒に振り返りをする時間を設定しています。

・事業所を一言で表すなら。

エネルギーチャージができる職場♪



くるみ

秋山児発管

・どのような支援プログラムを行っていますか。

①製作 ②運動 ③音楽

④ごっこ遊び ⑤ルール遊び

の5つの課題をもとに、クラスの発達段階に合わせた支援プログラムを設定しています。

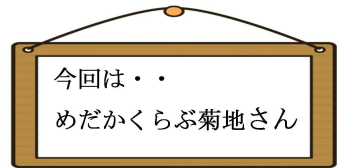
・園外活動ではどのようなことをしていますか。

歩いて5分ほどの、2か所の公園に行つて活動しています。事業所の前ではシャボン玉や水風船を使った活動をすることもあり。お別れ遠足では、お弁当を持ち、歩いて丸山城址公園まで行きました。

・事業所を一言で表すなら。

気兼ねなく意見を出し合える明るく元気な事業所♪

レポート vol.2



・この仕事に就いたきっかけはなんですか。



友だちのお母さん

に紹介してもらい、経理事務としてこの法人に入社しました。めだかくらぶの立ち上げの際に支援員としての勤務に誘っていただき、現在に至っています。

・仕事のやりがいは何ですか。

お子さんの成長過程を見られることや、自分の支援方法とお子さんがしてほしいことが合致した時に「間違っていないかった」と実感できることです。

・仕事の息抜きはなんですか。

毎晩眠る前に一人でボーっとする時間を過ごすことや、通勤の車の中でCDやラジオをかけるながら声を出して歌うことです。

今回は...

くるみに
リレーします♪

かわのひろばをご覧いただきありがとうございます。

4月に機関紙の記事内容を決定した頃は、桜が見ごろを迎えていましたが、完成する頃には梅雨明けの季節となりました。作成当初は裏面の記事は横書きでしたが、6月に入ってから思い切って縦書きにすると、とても読みやすくなりました。

インタビューの回答を全て読み、各事業所がどのような支援に力を入れているか、支援を行う上でどのような工夫をしているのか、各事業所や職員の魅力を改めて実感することができました。編集にあたり、お互いにインタビューをし合うことにより他の事業所の話が聞けてよかったとの声もありました。また、機関紙委員で話し合いや編集に時間がかかる部分があったので次回から試行錯誤していき、記事の中で紹介しきれなかった部分もあるので、また各事業所の魅力を紹介したいと思います。

これからもわかりやすく事業の様子や情報を発信していきたいと思えます。

次回号もお楽しみに♪